

北海道浮魚ニュース

平成 14 (2002) 年度 13号 (通巻 No.133)

2002 年 9 月 2 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

道南太平洋スルメイカ南下期調査結果

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間 : 2002 年 8 月 26 日 ~ 8 月 30 日
 - ・調査海域 : 道南太平洋 (渡島半島沖 ~ 日高沖 ~ 下北半島沖 ~ 津軽海峡)
 - ・調査船 : 金星丸 (イカ釣機 5 台、イカ用集魚灯 20 灯装備)
- 昨年 (2001 年 8 月 27 ~ 31 日) のデータと比較しました。

分布密度は比較的高く、昨年に比べ魚体サイズは大きい

1. 水温分布 (図 1、2)

表面水温は、19.1 ~ 20.1 の範囲にあり、昨年に比べ 0.9 ~ 3.7 低い値を示していました。特に、津軽海峡内 (St.16) では 3.7 低い値でした。

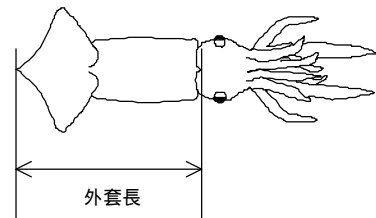
深度 50 m 層の水温は、St.1 と St.15 で昨年よりも 0.4 ~ 0.8 低い値を示していました。

2. 分布密度 (図 1、2、表 1)

調査を行った 3 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は、1.0 ~ 42.0 の範囲 (昨年 : 10.0 ~ 104.9) にありました。木直沖の St.1 で、昨年を上回る値を示しましたが、他の 2 点では下回りました。全体の平均 CPUE は 19.2 であり、1997 年以降で 2 番目に高い値でした。

3. スルメイカの大きさ (図 1、2、表 1)

スルメイカの外套長 (胴長) は、調査点全体で 18 ~ 28cm (2001 年 17 ~ 29cm) の範囲にありました。モード (最も多く漁獲されたイカの大きさ) は 22cm と 24cm にあり、2001 年 (モード 20 と 22cm) と比べると、各地点で 2cm 大型でした。



4. まとめ

道南太平洋におけるスルメイカの分布状況は、比較的分布密度の高い日本海側の実態とほぼ同様で、魚群密度が比較的高い状態にあると考えられ、その魚体サイズは、例年に比べ大型であることが予想されます。

(文責 : 函館水産試験場資源管理部、TEL : 0138-57-5997 直通、FAX : 0138-57-5991)

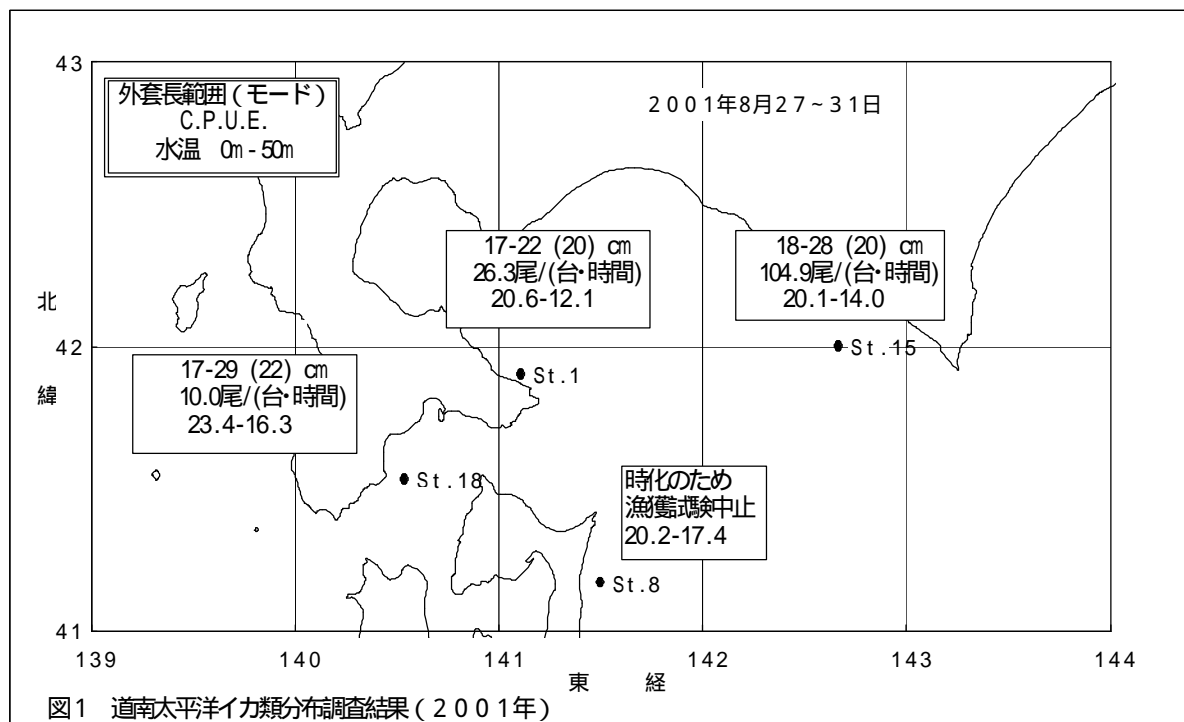
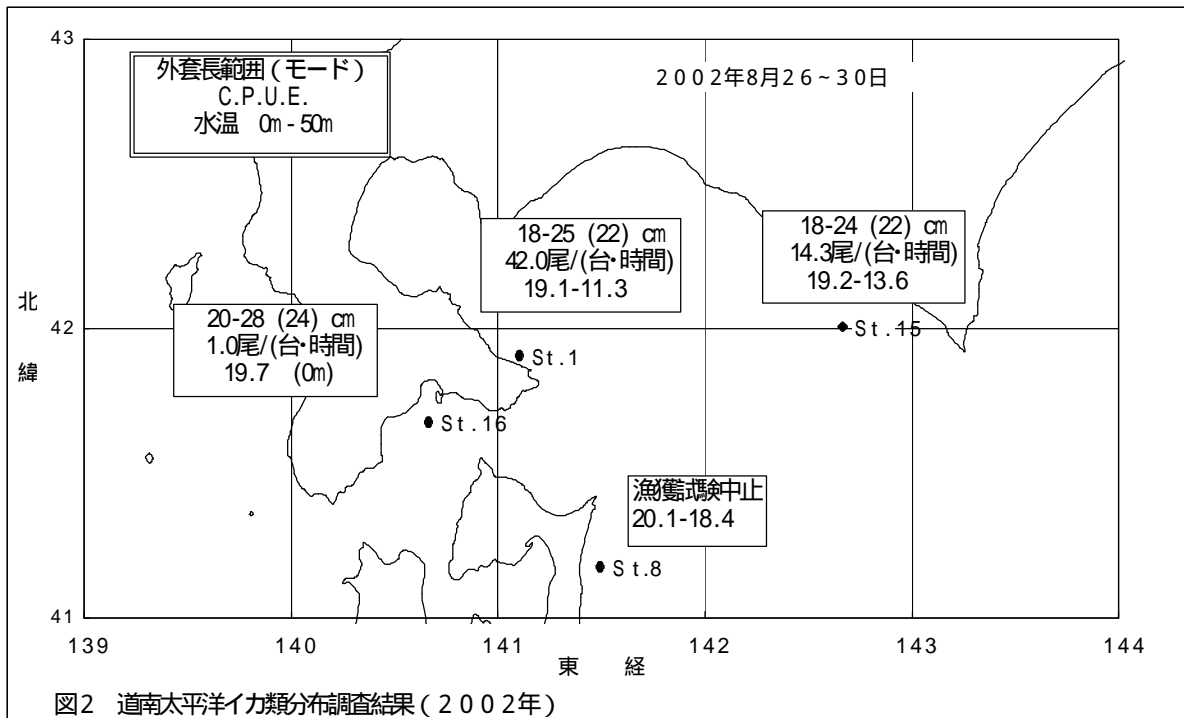


表1 道南太平洋イカ類分布調査時のC P U Eと外套長の経年変化

調査を実施した点の	1997(H9)	1998(H10)	1999(H11)	2000(H12)	2001(H13)	2002(H14)
平均CPE(尾/台・時間)	17.3	13.6	3.2	9.7	47.1	19.2
外套長の範囲(cm)	12-27	14-28	14-28	11-28	17-29	18-28
外套長モードの範囲(cm)	21-23	18-21	20-22	15-21	20-22	22-24
水温() 表層	17.7-23.4	19.8-22.3	22.1-25.0	22.0-25.4	20.1-23.4	19.1-20.1
50m層	9.7-18.7	11.6-16.0	10.0-20.2	8.0-20.1	12.1-17.4	11.3-18.4